

CONTENTS

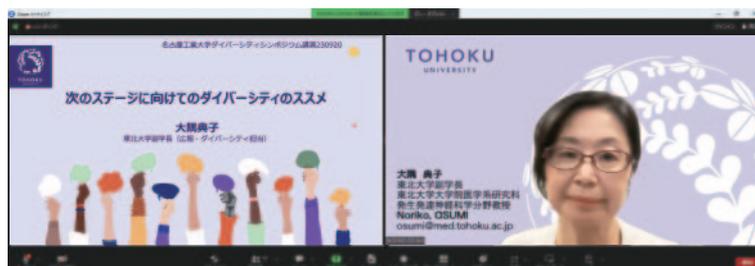
TOPICS

- ① ダイバーシティ推進シンポジウム「共に創る未来へ」
- ② 名古屋工業大学公開講座
モノづくりチャレンジ「第3回3Dプリンターでオリジナルグッズを作ろう！」
- ③ 夏季オープンキャンパス
女子学生向け座談会
- ④ 名古屋工業大学 男女共同参画週間
- ⑤ スーパーサイエンスハイスクール事業「ラボビジ」を名古屋工業大学にて開催
- ⑥ 「工学の扉を開こう」が日産財団「第6回りカジョ育成賞」奨励賞を受賞
- ⑦ 女性研究者研究促進制度の採択者が決定しました

TOPIC 1 ダイバーシティ推進シンポジウム「共に創る未来へ」

2023年9月20日、名古屋工業大学ダイバーシティ推進シンポジウム「共に創る未来へ」をオンライン開催しました。2023年3月に文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」の6年間の事業を終了し、本学がこのたび新たな一歩を踏み出すにあたり、重要な課題を皆様と共有する機会として本シンポジウムを開催いたしました。

ダイバーシティ推進センター加野准教授の司会進行のもと、名古屋工業大学小畑誠理事・副学長の挨拶により開会しました。最初に、ダイバーシティ推進センター加野准教授が本学のダイバーシティ推進事業の事業報告と事業実施期間終了後の今後の取組内容について報告しました。

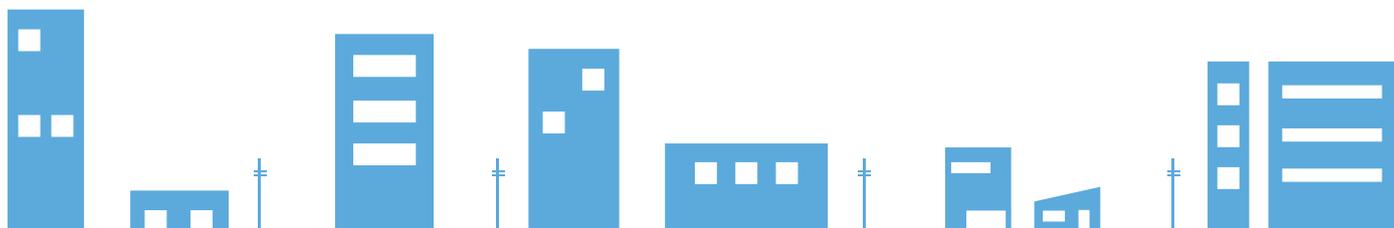


東北大学副学長 大隅 典子氏

続いて、「次のステージに向けてのダイバーシティのススメ」と題して、東北大学副学長(広報・ダイバーシティ担当)、附属図書館長、東北大学大学院医学系研究科発生発達神経科学分野教授 大隅典子氏にご講演いただきました。脳がどのような過程を経て性分化するのかという話題から始まり、歴史的に性差がどのように捉えられてきたのか科学史の文献に触れながら解説された後、性差が軽視され、見落とされたことにより生じてきた弊害と、それらを把握して克服しようとする社会的潮流「ジェンダード・イノベーション」についてお話しされました。講演の後半では、日本の女性研究者の現状を多くのデータで示し、ダイバーシティ推進のために、無意識のバイアスを払拭することの重要性を説かれた後、東北大学の女性研究者活躍推進の先進的な取組みについて、工学分野を中心に紹介されました。

最後に本学副学長・ダイバーシティ推進センター長 井門康司教授より、講演者、参加者への謝辞が述べられ、シンポジウムは閉会しました。

本学役員、教育類長、センター長等で構成されるダイバーシティ推進委員会委員のほか、学内外から46名が参加しました。参加者からは、「バイアスはないという人がバイアスを持ちがちだというお話は、自分の戒めにしようと思いました。また、ダイバーシティを浸透させる取組には、学内改革のプロセスに通ずるところがあり、参考となりました。」「大隈先生のお話は、もっと時間をかけても聞きたい内容でした。日本の現状分析結果がしっかりとまとめて示されたことで、自分たちの置かれている状況を客観視することができました。」などの声が寄せられました。



TOPIC 2 名古屋工業大学公開講座 モノづくりチャレンジ 「第3回3Dプリンターでオリジナルグッズを作ろう！」

2023年7月29日、女子中高生を対象に、「モノづくりチャレンジ:第3回 3Dプリンターでオリジナルグッズを作ろう！」を本学11号館2階CAD室にて開催しました。中学1年生から高校1年生までの17名が参加し、アンリツ株式会社 理事・CTO 野田華子氏(本学OG)の指導のもと、ものづくりの発案から設計までを体験しました。イベントでは、女子学生団体彩綾～SAYA～から5名の学部生が、参加者のCAD操作をサポートしました。学生サポーターは、冒頭の自己紹介の際に自身が設計して3Dプリントされた作品を紹介しました。



学生サポーター
5名
女子学生団体
彩綾～SAYA～



アンリツ株式会社 理事・CTO
野田華子氏

本イベントは、4時間半にわたって、3部構成で行われました。

第1部では、野田華子氏による講義が行われ、CPS(サイバーフィジカルシステム)や3Dプリンターの歴史や仕組みについて学びました。

第2部では、3D CADの基本操作について、野田氏がスクリーンに示す操作を参加者も同時に操作しながら学習していきました。参加者の多くが、初めて触れる3D CADに少し緊張していましたが、学生サポーターのアドバイスも受けながら、順調に練習を進めていきました。

第3部では、事前に参加者が提出したグッズのデッサンをもとに、3Dプリンターの特性を考えながら設計していきます。作りたいグッズの形をより明確にイメージして、寸法も考えてデッサンを修正した後、紙に鉛筆で描いたものをデジタルに作り替えていく作業を、学生サポーターに相談しながら着々と進め、最後には、全員が思い描いたオリジナルグッズの設計を完成させることができました。

イベント終了後のアンケートでは、参加者から、「難しかったけど、自分でいろんなものを設計するのが楽しかったです。」「サポーターのみなさんはとても親切で、サクサクと進めることができました。」「3Dプリンターでものを作ることが初めてでとても良い体験ができました。また、このような講座があったら行きたいと思いました。」という感想が寄せられました。参加者の殆どが、3D CADを使った経験がなく、講座のレベルを「難しい」、「やや難しい」と答えた方が7割程でしたが、難しかったこと・興味深かったことを各自の視点でとらえ、ものづくり体験を通して工学にふれる機会となりました。次回は、12月16日に開催予定です。



参加者の作品 豊かな想像力を発揮して、短時間で素敵な作品を設計できました！



TOPIC 3 夏季オープンキャンパス 女子学生向け座談会を開催しました

2023年8月1日、オープンキャンパスにて、名工大の女子在學生と女子学生団体彩綾～SAYA～の協力のもと、座談会形式の女子学生向けの相談会を2号館11階のラウンジにて開催しました。この座談会には、女子学生団体「彩綾」から2名の女子学生が参加しました。

学科ごとに女子学生が各1名ずつ8つのグループに分かれ、本学女子学生を囲む座談会が行われました。名工大の女子学生の割合や一般・推薦入試の受験対策、希望学科の特徴、学生生活、就職先などについて、参加者から多くの質問が寄せられ、女子学生が自身の経験談を伝えて回答していました。

それぞれ30分程度で開催された座談会には、1回目34名、2回目33名の合計67名が参加しました。参加者からは、限られた時間内ではあったがとても参考になったと大変好評でした。



13時10分～と14時10分～の2回開催
写真は13時10分～の座談会の様子

TOPIC 4 名古屋工業大学 男女共同参画週間

毎年6月23日から6月29日は、内閣府「男女共同参画共同週間」です。これに合わせて、ダイバーシティ推進センターでは、本学における男女共同参画社会の推進を図るため、学生及び教職員を対象に、図書館の展示コーナーにポスターを掲示し、ロールモデル集やニュースレター、i-caféにあるダイバーシティ推進センター蔵書一覧を設置するとともに、ジェンダー・ダイバーシティ関連図書を展示しました。11号館3階のダイバーシティ推進センターの窓にもポスターを掲示致しました。

なお、11号館3階 i-caféにある蔵書は、センター事務室に学生証、職員証をお持ちいただければいつでも貸出できますので、是非ご利用ください。



TOPIC 5 スーパーサイエンスハイスクール事業「ラボビジ」を 名古屋工業大学にて開催しました

2023年8月7日、愛知県立一宮高等学校スーパーサイエンスハイスクール事業「女性科学者のたまご育成プロジェクト」の取組の一環として「ラボビジ」を開催し、愛知県内の22名の学生(高校生21名、中学生1名)が参加しました。

はじめに、ダイバーシティ推進センター 副センター長 武藤敦子准教授より大学紹介・工学分野の女性活躍・ダイバーシティ推進についてのお話の後、在学生の代表として名工大女子学生団体彩綾～SAYA～4名が自己紹介を行いました。続いて、彼女たちの案内のもとグループに分かれて構内を見学しました。

「ラボビジ」のメインとなる研究室見学では、電気・機械工学系プログラム 機械工学分野 医用生体工学研究室を訪問し、二人の研究者の講義を受けました。はじめに氏原嘉洋准教授が「医師も知らない！心臓の美しさとしなやかさを機械工学から解き明かす！」と題して、医用工学分野の研究内容を中心に、研究者としてのこれまでの道のりや生活の様子なども含めてお話しされました。次に、伊藤愛助教(博士後期課程2年)が、「好奇心をエンジンに～脊椎動物の心臓進化に心惹かれて～」と題して、進路選択に関するご自身の経験談を中心にお話しされました。講義後には実際に研究室に入り、先生方から研究や機器の説明を受けて、医用工学研究への理解を深めました。

最後に、彩綾の在學生との座談会が行われ、受験勉強、大学での学生生活や研究について、在学生の率直な生の声を聞きました。



電気・機械工学系プログラム 機械工学分野
氏原嘉洋准教授



電気・機械工学教育類 機械工学分野
伊藤愛助教



TOPIC 6 「工学の扉を開こう」が 日産財団「第6回リカジョ育成賞」奨励賞を受賞

「工学の扉を開こう!」をテーマに、女子小・中・高生を対象に工学の魅力を発信するためにやってきたダイバーシティ推進センターの一連の取組みが評価され、第6回リカジョ育成賞『奨励賞』を受賞しました。

この取組みは、2020年度、コロナ禍において大学のオープンキャンパスが中止される中、オンラインで工学部の魅力を女子中高生に向けて発信する目的で「女性が拓く工学の未来」と題して開設し、2021年度からは「工学の扉を開こう」と改称し、継続して行なっています。毎年女性研究者や、女子学生によって研究や学生生活、学科での学びを紹介する動画を複数制作してウェブサイト「工学の扉を開こう」で公開してきました。2020年12月の公開から2023年5月31日までのウェブサイト訪問件数は、36,730件で、うち約60%が女性です。愛知、東京の大都市圏を中心に、全国47都道府県すべての地域からのアクセスがありました。

また、女子児童・生徒が、文系・理系の区別や選択を意識する前に、科学技術への関心や理数系の学びへの関心を高めてもらう機会として、工学体験イベント「モノづくりチャレンジ」を2021年度から開始しました。小学3年生～中学3年生の女子児童・生徒を対象とする「プログラミング体験講座」を2021年度から、女子中高生を対象とする「3Dプリンターでオリジナルグッズを作ろう」を2022年度から本学を会場として開催しています。

さらに、ウェブサイト訪問やイベント参加をきっかけに芽生えた工学への関心を、その後も抱き続けてもらえるよう、女子学生向けロールモデル集「共に創る未来へII～名古屋工業大学女子学生・女性研究者からのメッセージ」を発行し、サイト訪問者や「モノづくりチャレンジ」参加者に配布しました。

サイト訪問者、イベント参加者のアンケートでは、50%がもともと工学や理系分野に関心があったと回答する一方で、約20%が、「以前は関心がなかったが、このサイト・イベントを通して関心を持った」と回答しており、工学や理系進路にこれまで関心がなかった層に対しても、工学分野をアピールできていることが確認できました。

「リカジョ育成賞」の審査では、各取組みを連動させて包括的に実施している点、工学や理系進路に関心が高くなかった層にもアピールできているという点が高く評価されました。

ダイバーシティ推進センターは、ウェブサイト、体験イベントともに内容を充実させながら「工学の扉を開こう」を今後も継続し、本取組みが広く認知されるように努めてまいります。



TOPIC 7 女性研究者研究促進制度の採択者が決定しました

受託研究や民間企業との共同研究等につながる外部資金獲得に向けた支援として、2017年度に「女性研究者研究促進制度」を創設し、意欲ある女性研究者を対象に研究助成をしています。2023年度は5月に学内公募が行われ、選考委員会による審査を経て4名の女性研究者が採択されました。

採択者

氏名	所属	職名	研究課題名
徳永 透子	物理工学	助教	高強度・高靱性共晶ハイレントロピー合金の探索
陳 擘	社会学	助教	気候風土に適應する柔軟な建築内外境域の設計手法に関する研究
成田 麻未	物理工学	助教	7000系アルミニウム合金におけるナノ組織の形成過程解明
武田 はやみ	生命・応用化学	特任教員	画像解析を利用した高導電性固体電解質材料合成方法の確立

発行

2023年9月発行

名古屋工業大学ダイバーシティ推進センター

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

TEL | 052-735-5121, 052-735-5279

E-MAIL | diversity-crew@adm.nitech.ac.jp

URL | <https://diversity.web.nitech.ac.jp/>